

大学院生の英語論文執筆に役立つかもしれないTips (応援)

大前提

- ・ 科学学的証拠 (ピース) を発表することで、(ピースの大きさや形に関わらず) 知識は世界で共有され、学術が発展!
- ・ 辞めてしまったら、その時点で何もかもが終わり (内村光良) 」 → 小さい目標を立て、息継ぎしながら書こう!

■ 論文を書く前に

Tip 1. 攻略本をしっかりと読む。例: 「これから論文を書く若者のために」

Tip 2. 論文を書く前に、解析を終えて、ほぼ完璧な図表をつくる (結果がブレると執筆はエンドレスに…)。

Tip 3. 投稿するジャーナルを決める・イメージする。

■ 論文執筆

Tip 4. 最初に「原稿ファイル」をつくる

- ・ 左寄せ、ダブルスペース、ページ数や行番号の挿入、IntroductionやMethod等のセクション名の記入
- ・ Tip3と4ができると後は穴埋め! 今日はこの段落やろう、あと何段落やれば終わりだとか、小さな目標を立てやすい。

Tip 5. 方法から執筆。秘密にしない、誰もが使える究極のレシピ! We~など能動態で書くと書きやすい。

Tip 6. 次に結果の記述。図表をもとに、淡々と書く。いくつかの小題を付けて、結果を記述。

■ 論文執筆

Tip 7. イントロは、Issue—Need—Solutionの流れでシンプルに整理

Issue（取り上げる話題や問題の位置づけ、全体像の定義）

Need（そのIssueはなぜ解決する必要があるか、研究課題の重要性）

Solution（どうやって解決・新規性の強調、研究の具体的な目的）

Tip 8. Discussion 最初の一段落目は、端的に結果のまとめを書く（仮説や目的に対する答え）

Tip 9. Discussion 議論・強調したい点を踏まえて、各段落の最初1～2行を先に書く

Tip 10. Discussion 最後の方で、limitation（問題点や将来の課題）を書く（書かない場合でも意識する）

■ 補足 英語について

- ・思った以上に、シンプルに書く（一文は20～25単語が目安、関係代名詞は1回だけ）
- ・ Google scholarをうまく使って、英語表現を探す、確かめる
- ・ 冠詞の使い方については、「aとtheの物語」を一度読むとよい
- ・ 可能性の表現について意識する(mayやcouldの違い、suggestとshowの違い、likelyとprobablyの違い等)

身近な先輩や先生に相談する + 表現や構成に注目して論文をたくさん読む→色々なTipsがたまり、自分の財産に！

大学院生の論文リバイズに役立つかもしれないTips (応援)

大前提

- ・編集委員、査読者はボランティアでアカデミアに貢献。論文が良くなるための助言と信じ、まずは真摯に受け止めよう。
- ・修正も「辞めてしまったら、その時点で何もかもが終わり（内村光良）」→Revision判断=編集長は興味を持っているんだ！

■読み込む

Tip 1. 辞書やDeep L、何でもいいので、一字一句丁寧に英語を訳しながら、コメントの意図を理解・整理する。

Tip 2. 大きな修正箇所は、修正前に共同研究者としっかり相談して、対応方針を早急に決める。

(再実験や再解析の必要性がある場合、査読者1と査読者2が大きく異なる助言をしている場合等)

Tip 3. 締切をバックキャストして、計画を立てる(細々修正するよりも、まとまって時間をとれる日を確保)。

■対応(真摯にそしてスマートに)

Tip 4. 提案された解析や実験等を(できるなら)まずはやってみる。その過程で良い修正案が生まれる時も！

Tip 5. 査読者が誤って理解している時(ただし自分の書き方が正しかったか要確認!)、修正に限界がある時は、正直にかつ明確にレターに書く。

Tip 6. 指摘箇所だけ修正すると、全体としてまとまりや流れが悪く(凸凹論文)なるので、複数の査読者からの助言を総合的に判断して、指摘されていない箇所も修正したほうがより良くなる場合は積極的に修正。

■わかりやすいカバーレターを書く

Tip 7. 編集長（担当編集委員）に向けてコメントを書く。

（個別の査読者に向けてではない）

Tip 8. 査読結果になくても、コメントに番号をふる。

Tip 9. コメントに対する返答は、フォントや色を変える。

（私は赤字にしている）

Tip 10. 修正した箇所がわかるように最大限努力！

- ・ 本文の修正箇所も赤字等で必ずハイライト
- ・ カバーレターに行番号やページ番号を書く。
※短い文章修正・追加の場合には、修正文章をカバーレターにコピーし、このような形で修正した、と書くとよい。

▼私の場合

Responses to Reviewer #1[←]

1. I thank the authors for a thorough revision of the manuscript and the additional analyses they did in order to improve the manuscript. Most points raised have been successfully addressed. Unfortunately, I am still not really happy with the comparison of the two lakes. I appreciate that the authors did also statistics using the temperatures at an earlier date, however, this does not address my concern that the two lakes at most dates during spring will be in a different successional stage because of one lake warms up faster than the other. All stats comparing the effects of temperatures on a specific date, will be somehow confounded by the effects of successional state. At least this problem needs to be carefully discussed.[←]

-We appreciate Reviewer#1 for carefully reviewing the manuscript again. As suggested by Reviewer#1, we compared the effect of water temperature on the clear-water phase timing using multiple dates (May 1st and April 10th) and found that the overall findings were not sensitive to the date used. Our intent with this using date is to produce a simple index of whether it is a warm or cold spring (early vs. late), and evaluate whether it influences clear water phase metrics. Considering that water temperatures on April 10th and May 1st were higher in Lake Monona, the two study lakes can have different succession stage on those dates. To describe these concerns, we have revised the 3rd paragraph of Discussion (Lines 433-440). Please see also our responses to the comments 11 and 13 by Reviewer#1.[←]

応援

Tip 8で番号をふると、全コメント数がわかる。

筆が進まない時、煮詰まった時は、簡単に対応できるコメントからどんどん修正していく。

そうすると、〇分1は終わったゾ！と、やった感がでてきて終わりが見えてくる！